

2015年の新年を迎えて

(昨年2月と3月に義父と義母が亡くなり、新年のお祝いを控えさせていただいております)

福井 博一
岐阜大学応用生物科学部
学部長
(園芸学研究室)

昨年は色々とお世話になり、ありがとうございました。昨年は午年ということもあって、私自身にとっても、岐阜大学にとっても、園芸業界にとっても、激動の一年間でした。今年は、私の干支「未年」です。おとなしく穏やかですが、着実な一年と致したいと思います。



私事ですが、5回目の羊年を迎えました。若い頃には、60歳といえば「人生の大半が終わった歳」と思っていました。しかし、実際に60歳になってみると、『あともう少しは頑張ってみよう』という気になります。赤いチャンチャンコの年ですが、さすがに恥ずかしいので、赤色のチョッキくらいで許してもらいます。



北海道札幌の「羊ヶ丘」には“Boys, be ambitious”のクラーク博士の銅像があります。20歳代の若い頃には、その想いに感化されたように思いますが、もう既に「boy」でもありません。大学の、そして花き産業界の「若い人達」への『クラーク博士』の役割を果たしたいと思います。



羊といえば右の写真の「メリノ種」ですが、なんと800品種以上いるようです。数千年での歴史の中で、野生種から交配・選抜が行われ、様々な系統が育成され、羊毛専用から肉兼用の系統がいます。バラも同じです。羊のように実用的ではありませんが、人々に心の安らぎを与える大きな役割を果たしています。最近では研究者としての立場が微妙になり始めていますが、研究員の落合正樹さんが後継者として育ててきてくれています。今後もバラの育種研究を進めていきます。



国立大学が法人化して10年をむかえます。6年ごとの中期計画も第2期の終わりに近づき、次第に大学に対する風向きが厳しくなり始めました。学部長職を務めて2年を過ぎ、さらに2年間の継続が決まりました。最近では、夜中に目が覚めることが多くなりました。羊の数を1匹・2匹・・・と数えると、大群に襲われて眠れなくなります。何か良い方法はありますか。 (良い方法→「酔い方法」に頼っています)

「迷える子羊」

私が迷っているはいけないことは良く判っています。これまでの経験を活かして、学部の、そして岐阜大学の行く末を見定めて、多くの教員・事務職員、学生、そして地域の産業界のために、最大限の貢献ができるように導きます。



「Shetland-Sheepdog」

羊飼いの意を汲んで、羊の群れを自在にリードします。私には3名の副学部長と事務長が支えてくれています。私自身も学長を支えるシーブドックの役割があります。「学長のリーダーシップ」そして「学部長のリーダーシップ」が問われていると理解しています。



右の羊は、1996年に「胚細胞への体細胞核の移植」で産まれたクローン羊です。クローン羊「ドリー」は新たな新技術として実用化への道を切り開きました。20年ほど前のことですが、「科学がリードする新しい時代が到来するんだ！」とワクワクしたことを思い出しました。

去年はSTAP細胞など、様々な科学技術倫理に関する問題が提起されました。左の写真は「羊皮紙」です。人類の歴史の中で「書き残すこと」が文化・文明の発展を支えています。自然科学は「再現性の科学」であり、実験ノートがいかに大切であるかを改めて認識させてくれました。このことを次世代の科学を担う若者達に伝え、今後の科学の発展と産業の発展に繋がります。

新たな科学の発見が、その後の産業に対して大きな影響を及ぼす時代を迎えましたが、科学の発展には「着実な基礎研究」が必要にも関わらず、派手さのない基礎研究にはなかなか光が当たりにくいことに憂慮しています。



もう「中年太り」とは言ってもらえない年齢です。何とかダイエットとは思っているのですが、ついつい「忙しくてジョギングする時間がない」、「帰宅時間が遅くて晩ご飯を食べる時間が遅くなるから」などと言い訳が優先されています。左の羊のように、食っちゃ寝をしているわけではないのですが…。「ブルーチーズ」って羊乳から出来ているって知っていました？ これを酒肴にバーボンウィスキーのロック！ 最高ですねえ。これが原因ですかねえ？



世界で最もヒツジを多く飼育しているのは中国で、1億3000万頭以上とのことです。

中国を訪問するようになって25年になりますが、羊を飼っているところをあまり見た記憶がありません。

ただし、刷羊肉(中国風ラムしゃぶ料理)はこの10年ほど食べる機会が多くなっています。専門店も多く、美味です。ゴマだれやポン酢の定番に加えて、香菜(シャンツァイ:パクチー)や臭豆腐などを色々混ぜて、自分だけのタレを作れるお店もあります。



烤羊肉。屋台で食べるのが最高です。

去年は、上海と大連の企業の技術顧問を引き受けることになりました。

政治的には色々ありますが、10年後を考えると、日本の花き産業にとって船便での輸出先であることは間違いなく、品種を始めとする知的財産の輸出先でもあります。



今になっては言っても仕方がないのですが、私はリーダーと言うより『良き執事』の役割が最も合っているように思います。(羊と何の関係するのかって？「執事・しつじ→ひつじ・羊」)裏方に徹し、必要とされるものを、先を読んで「あたかも知っていたように」自在に準備して提供する役割です。



羊は、昔から「生け贄」の役割です。日本では「人柱」でしょうか。願いが叶うのであれば、私が生け贄の役割を喜んで引き受けます。皆さんの思いを私が引き受けます。使ってください。

毎年のことながら、長文の新年の想いを読んでいただき、ありがとうございました。今年もよろしくお願いたします。